



「オウム事件」疑問の数々 「オウム事件」疑問の数々

この

の十数年、書こうかど
うか迷いつづけてきた
テーマがある。オウム

真理教が引き起こした一連の事
件の深層である。麻原彰晃元被
告の死刑判決は確定したが、オ
ウム事件には訳の分からぬこと
が山ほど残っている。

その一例を挙げよう。教団が
サリンを生成しているのを警察
がつかんだのは、地下鉄サリン
事件（1995年3月）が起き
る約半年も前だった。山梨県上
九一色村（当時）で異臭騒ぎが
起きたため調べたところ、第7
サティアンの側溝からサリン分
解物質が見つかった。94年6月
の松本サリン事件への教団の関
与を示す決定的証拠である。

にもかかわらず警察は強制捜
査に踏み切らず、地下鉄サリン
事件を招いてしまった。なぜ警
察はこんな奇妙な行動をとった
のか。私の知る限り、まだ誰も
その謎を解明していない。

'89年11月の坂本弁護士一家殺
害事件も、教団の犯行を疑わせ
るデータが多数あつた。翌年2
月ごろには実行犯の1人が坂本
弁護士の長男の遺体を埋めた場
所の地図を神奈川県警などに匿
名で送った。同県警はいちおう
その場所を捜索したが、なぜか
遺体は見つからなかつた。

それから5年後の'95年9月に
遺体が発見された時、遺体があ
つた場所の地下約70cmから、鏽
びたスプレー缶が出てきた。か
つて神奈川県警が捜索した際、
地表面に碁盤の目のように線を
引いて区別するためについたた
ラッカードだった。

神奈川県警は「たまたま遺体
近くまでしか掘り起さなかつ
たため発見できなかつた」と积
明したが、約40mの狭いエリア
なのに、その一部しか掘らない
のはあまりに不自然だ。もしか
したら警察は事件を握りつぶし
ていたのではないか。

「ここにいるI証人（地下鉄サ
リンの実行犯）はたゞいまれな
成就者です。この成就者に非礼
な態度だけではなく、本質的に
彼の精神に悪い影響をいつさい
控えていただきたい」

それが麻原元被告の一貫した
主張だった。彼は自分の生死に
は無頓着で、元弟子たちの魂が
汚されることをひたすら恐れて
いた。裁判記録からは、そうし
た彼の宗教家としての姿勢がは
つきりと浮かびあがる。

としたら、なぜ彼の教団は凄
め、元弟子たちに責任をなすり
つけようとした男である。

だが、実際に責任逃れをしよ
うとしたのは元弟子たちのほう
だろう。麻原元被告は彼らの悪
口を一度も言つていない。彼ら
から糾弾されても気にせず、彼
らをかばう姿勢を崩さなかつた。

原弁護団は元弟子たち
の暴走で事件が起きた
ことを立証しようとし
た。そのため元弟子たちの証言
の矛盾を追及した。すると彼ら
は言い逃れがきくなつて窮
地に陥る。そんな場面になると、
たいてい麻原元被告が「子供を
いじめるな」と言いだし弁護側
の反対尋問を妨害した。

「

この欄は、魚住昭氏、森
功氏、岩瀬達哉氏、青木
理氏のリレー連載です